



記念特集号に寄せて

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2009-08-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 上田, 正昭 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/1709

記念特集号に寄せて

学長 上田 正 昭

本学の人間関係学科の発足は一九八三年の四月であった。それまでの社会福祉学科を改組して、人間関係の構造と動態の解明をめざす学科が発足してから早くも十周年になる。また人間関係学科を母胎とする大学院修士課程「社会人間学専攻」が文部省の認可のもとに創設されたのは、一九九二年の三月であった。社会と人間が生成する諸関係を対象とするまさに学際的な「社会人間学専攻」の設置は、現在の人間関係学科における総合的な教育と研究の業績を前提とし、その総合的システムをさらに強化して、現在の社会状況が問いかけている諸問題の解明に寄与する専攻としてきわめて有意義である。大学院の専攻名称としてもわが国でははじめてであり、今後における教育と研究の成果が期待されている。

私事にわたって恐縮のいたりだが、一九九〇年の十二月、教授会ではからずも本学の学長に選出され、正式に赴任したのは一九九一年の六月一日であった。多くの教職員の方々の理解と協力のもとに、同年九月の教授会で「大阪女子大学将来計画」を決定し、大学院の増設と拡充、生涯学習研究センター・女性学研究センターの設立などを含む将来計画の実現をめざすこととなった。

一九九四年は、本学が創立されてから七十周年の画期とすべき重要な節目にあたっている。七十周年記念事業としての第一歩が、本学教職員の多年の念願であった大学院修士課程「社会人間学専攻」の具体化であった。開設一周年、「社会人間学専攻」は順調に前進している。かえりみて感慨もひとしおである。

本号は人間関係学科発足十周年、社会人間学専攻開設一周年を記念しての特集号だが、その教育と研究の努力が開花し結実して、さらに大きなみのりとうねりを招来するようにと願ってやまない。